

令和 6 年度第 1 回富谷市介護保険運営委員会 会議録

～ 委員会概要 ～

日 時 令和 6 年 7 月 11 日 (木) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 05 分

場 所 富谷市役所 3 階 305 会議室

出席委員 (14 名) 那須 正行、永野 憲子、笠原 純子、渡邊 裕志、吉村 恵理、
田中 しなの、草刈 恵一、斎藤 翔、門間 とも子、鈴木 郁子、
佐藤 恵子、相澤 富子、増田 恵美子、菅原 義則

欠席委員 (3 名) 江角 伸吾、志水 田鶴子、中谷 良子、

会議に参加したる者 市長 若生 裕俊

事務局出席者 (9 名)

○保健福祉部 部長 松原 誠、次長 浅場 悟、長寿福祉課長 横田 善和、
同課長補佐 奥山 晴基、同主幹 岡 宣之、同主事 早坂 優花
保健福祉総合支援センター所長 大谷 江里子、同副所長 伊東 大助
○市民生活部 税務課長 日野 正樹

< 委嘱状交付 > 代表受領 委員 笠原 純子

午後 2 時 00 分

< 開会 > 司会進行 長寿福祉課長

< あいさつ > 富谷市長 若生 裕俊

< 委員紹介、事務局紹介 >

< 委員長選任・副委員長指名 >

(横田課長) 委員長選出、副委員長指名となりますが、委員会規則第 3 条の規定に基づき、
委員長の選出は互選で、副委員長は委員長の指名により定めることとしておりますので、
それまでの議事進行については市長にお願いいたします。

(若生市長) 委員長が選出されるまで、暫時、議事進行をさせていただきます。委員長選出
にあたり委員の皆様からのご推薦はございますか

(菅原委員) 事務局一任でお願いいたします。

(若生市長) 菅原委員から事務局一任のご発言がありましたが、委員の皆様よろしいでしょ
うか。(はいと発言あり) それでは事務局から、候補をお願いします。

(横田課長) 事務局としましては、今期 3 年間も引き続き、那須委員に委員長をお願いした
いと考えおり、推薦させていただきたいと思います。

(若生市長) ただいま事務局から、これまで委員長を務めていただいた那須委員に委員長を、
というご推薦がありましたがいかがでしょうか？

(意見なし 拍手で承認)

(若生市長) それでは那須委員さん、どうぞよろしくお願いします。委員長が決定しましたので、副委員長の指名をお願いいたします。

(那須委員長) 永野委員さんをお願いいたします。

(若生市長) 永野委員さんが副委員長ということでございますので、よろしくお願いいたします。それでは、委員長、副委員長が決定いたしましたので、これで私の任は解かせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○委員長 那須 正行、副委員長 永野 憲子

(委員長選出議事進行後、市長、公務により退席)

(横田課長) 今後の議事進行につきましては、委員会規則第 4 条の規定に基づき、委員長が議長となると定められてございますので、那須委員長は席に移動いただき、一言ごあいさつを頂戴したのち、進行いただければと思います。

< あいさつ > 富谷市介護保険運営委員会 委員長 那須 正行

(那須委員長) それでは、次第に従いまして、会議を進めてまいります。議事を進行するにあたり、委員の皆様の活発なご意見を期待しますとともに、進行につきましてご協力をお願いいたします。

早速ですが議事に入ります。初めに、富谷市高齢者保健福祉計画・第 9 期介護保険事業計画について、事務局から報告をお願いいたします。

(横田課長) < 説明 富谷市高齢者保健福祉計画・第 9 期介護保険事業計画について >

(那須委員長) はい、ありがとうございました。只今事務局のほうからご説明ありましたけれども、ご質問等ございますか？(意見無し)。

次に審議に入りたいと思います。まず始めに(1)令和 5 年度事業実績等について、①介護給付実績等について事務局からご説明をお願いいたします。

(奥山補佐) < 資料 1 ①介護給付実績等について >

(那須委員長) ご説明ありがとうございました。只今の事務局の説明について、皆様からご意見を頂戴したいなと思いますが。

(斎藤委員) 9 ページ 10 ページ目の部分で質問したいところがあります。9 ページ目の部分で訪問介護と入浴について、増加傾向が顕著というところで、要因のところがサービス受給率の増加が要因ということで書かれていたんですけれども、下の 10 ページのところの受給率のところは、横ばいというところで増加傾向のところではなく横ばいに推移してるというところになってはいたんですけれども、この増加は、受給率のところの増加ではないのではないかなと思っの質問です。

(奥山補佐) 受給率の増加につきましては令和 2 年度以降、新型コロナウイルス関係の影響を受けまして、訪問介護、訪問リハのほうに伸びがあり、通所介護、通所リハのほうはすごく減少していました。それ（減少）の伸びは、最終的には鈍化してきていたものの、これらの影響を受けたサービスについては、まだ少しその影響が残っておりまして、元の水準にはなかなか戻っていないというのが現状でございます。

(斎藤委員) 計画値のところでは 171%と増加はしている中、ここが横ばいではあるけど、この増加っていうところがっていうところで気にはなってたんですけど、コロナの関係でその 2 年度からも微増というところではあったんですけど執行率の伸びのところは、受給率というよりもその利用されてる方自体の使用量が増えて、増加したっていう形の認識で大丈夫でしょうか。

(奥山補佐) そちらの認識でお願いいたします。

(那須委員長) ありがとうございます、他にございませんか？（意見なし）。次の審議事項、②介護保険料調定額、収納額及び収納率等について事務局からご説明をお願いします。

(日野課長) < 資料 2 ②介護保険料調定額、収納額及び収納率等について >

(那須委員長) 説明ありがとうございました。ただいま説明がありましたが、ご意見ご質問等ございましたら承ります（意見なし）。それでは、次の審議事項③高齢保健事業等実績及び令和 6 年度計画について、事務局からお願いします。

(伊東副所長) < 資料 3 ③高齢保健事業等実績及び令和 6 年度計画について >

(那須委員長) はい、ご説明ありがとうございました。只今の事務局のご説明について、ご

意見、ご質問等ございましたら承ります。

(菅原委員) 4ページに街かどカフェというものがありました。今、福祉健康センターのところでですね、毎週木曜日なにかこれに似たようなことを実施していますが、集計にカウントされてるんですか、全然関係ないものですか。

(大谷所長) 街かどカフェにつきましては、地域のほうで町内会さんを中心としてやっていただいているもので位置付けております。多方面たくさんの地域から、お客様にいらっしやっていただくという点において、平成28年度から徐々に実施してきているもので地域の居場所づくりということでございます。

一方、今お話をいただいたのはセンターカフェのほうかなと思いますが、こちら令和5年から福祉健康センターで、毎週木曜日に実施していただいているものかと思えます。こちら市全方向からいらしていただいているカフェということで、様々なサポーターさんにご協力いただきながら開催しているところでございますので、定義づけが異なっているため、地域で行っている街かどカフェでの実績となっております。

(菅原委員) 今、包括さくらでは色んなことを今やってるんですが、私の家の近くで、皆さん「手帳」のようなものをなんか持ってるんですよ、それは写真を撮ってパスポートみたいにして使っていたりしていますがご存知でしょうか。

(大谷所長) すいません、具体的に把握をしきれていなかったのも、「さくら」で実施しているのであれば聞いてみたいと思います。

(菅原委員) 私の知る限りでは、その「さくら」で、実際もう何回かやってらっしゃるんで、いいアイデアだなと思って。

(大谷所長) そうですね、はい、ちょっと聞いて確認してみたいと思います。

(菅原委員) この認知症サポーターの、この間新聞にも出てましたけれども、行方不明者が非常に全国的には多いんですね。ここ黒川地域については、そういうお話はあるのでしょうか？聞きたいのはGPS、これをいかに工夫し持っていて、徘徊する方が対象なのではないでしょうか。

(大谷所長) 本市では行方不明になって捜索をかけている方は毎年いらっしゃいます。年間 10 人以下ではあるんですけども、昨年度は、市が把握してる方で 5 名ほど、市も含めて捜索に当たらせていただいた方がいらっしゃいます。幸い、見つかったところではございますが、GPS に関しましては県内で 5 ヶ所の自治体でしたか、そういった補助事業とかを実施している自治体があることは把握しております。

今後、そういった取り組みが有効かどうかというところも含めまして、地域の中で認知症家族の会からお話をお伺いしながら、検討を重ねていきたいなと考えているところでございます。

また、昨年度から、QR コードを使った見守り支援事業というのを始めたところでございます。今実績が 4 名というところで、今後は普及啓発にも力を入れていきたいと考えているところでございます。

(那須委員長) はい、他にご意見ありましたらどうぞ。

(斎藤委員) 5 ページ目の緊急通報システムの部分で、新たな新機種、固定電話回線を有しない方の新機種を導入したというところで記載がありました。目標数値よりも実績が多くなったということで、固定電話じゃなくて新機種だから導入できたという方は実際にいらっしゃったのかというところをお伺いできればと思います。

(大谷所長) 固定電話が何件、携帯電話が何件という詳細な資料は持ち合わせていないんですけども、今、ご高齢の方でも固定電話を解約されて、携帯電話だけになっている方も多くございますので、そういった方でも緊急通報システムのほうを広くご利用いただけるように、固定電話に関わらず携帯電話であっても、そういうシステムを利用できるような、そういったものを始めてきたところでございます、ですので伸びに関してはそういったところの一因があるかとは思いますが、今、大体、新規の確か半分ぐらい、詳細な数字は持ち合わせてないんですが、利便性よく活用していただいているところでございます。

(斎藤委員) ありがとうございます。

(那須委員長) はい、他にございますか。

(草刈委員) 特別養護老人ホームの運営をしてる者なんですが、実際には今、介護度 3 以上

の高齢者の皆さんに関して入居というふうに決められてるんですが、介護度が3〜4で入居されて、その後の認定で2に落ちて、とかということが起きてですね、これはもう自治体として、保険者として富谷市ではどういうふうにお考えになっているのかと、実際確かめるわけではないんですが、県内の自治体でも、（介護度が）2以下になった場合は、退去勧告が出てるような自治体もあるというふうに聞いているんですが、これいかなものでしょう。

（横田課長） はい、委員のお話の通り、基本的には入所施設に関しましては介護度3以上という形が基本となってございます。ただ本市におきましては、こちらは「特例入所」という制度がございまして、介護度が2とかそういった場合であったとしても、その方のご家族の状況、意見書の内容等々を勘案しまして、入所を決定するのは市ではないので、意見書に対しての回答を出しているところであります。

ここで何件というお話はできないんですけれども、実例としてございますので、区分が2になったからといって、退去しなさいというような事例の部分はないものと認識しておりますので、逆にそういう方がおりましたら、ご相談いただければ、対応していきたいというところでございます。

（増田委員） 12ページに中学生の方にも介護職の啓発パンフレットを配布したとありますが、実は先日の5日に成田中学校では地域を巻き込んだ防災活動を行いました。

そこには、9つの団体が学校に来ていただいて、その中から3つ、自分たちが選択したところの講義を受けられるというシステムなんですけど、そのうちの2つに、高齢者福祉施設が入っておいりました。成田の里さんにもご協力をいただいたんですが、1つの施設は、いろんな介護がどんなに大変かっていうのをリクライニングの車椅子を持ってきてくださって、子供たちにそれ（車椅子）を障害物を避けながら運転する難しさなどを教えていただきました。

もう1つの施設は、「看取りの話」という、命の授業をしてくださり、校長先生が私にこう本当に涙ぐみながら、「こういう話を先生がするのは難しい」と、「このような施設の方たちが話してくれてこそ子供たちに通じる」と言っていました。

その中には本当に介護施設だけじゃなくて、若者たちがやっている防災活動の話があったり、ドローンの話があったり、いろんな話の中で、介護のことも入っているというのが、子供たちにとってスッと入ってくる、介護のことをやりますじゃなくて、そういうトータルな（学びの）中で、介護福祉施設の話もあるっていうのが、とてもいいなあと思ったので、来年度もどちらの施設からも「協力したい」とおっしゃって

くださってるので、そのことについても、この啓発という中に入れていただきたいなと思ってのご提案でした。

(大谷所長) はい、ありがとうございます。まず、そうですね自助とか互助というのは本当に基本っていうか地盤を作るものだとは私どもは考えておりまして、本当に地域づくりの上では、本当に土台になっていくものだなと日々感じております。

高齢化の伸展はしているんですけれども、委員さんのお話もあったように、非常に高齢者の方が地域を牽引していただいているなっていうのも肌で感じているところでございます。これから若い世代も含めてどうやって、この地域を再び活性化というか、そこを繋いでいくかっていうのが我々の課題にもなっているんだろうなっていうところを感じております。

ゆとりすとクラブサロンだったり、街角カフェとか地域の方が主体的になって実施していただいている取り組みというものを、中心としながらも、地域に出てみれば、たくさんの活動があるっていうところも承知してるところでございます。

包括支援センターのほうで、今年度から生活支援コーディネーターという役割の者を、認知症支援推進とともになんですけど、兼任なんですけど専従配置をしております。その職種の者にどんどん地域に出ていただいて、地域の「お宝」を発見していただくような取り組みを、今始めているところでございます。

そういった地域の強みっていうのを、こちらのほうでも、日々参集しながらそういったものを横展開して行きたいなと考えているところでございます。

(門間委員) コロナが明けて活動が出てきたんですが、地域の宝っていうのは横の繋がり、やっぱり、生活の中から生き生きしてくるもんだっていうふうに、30年やってきたんですが、実際ここに来て、家族っていうのは何だろうというふうに思います。

本人たち、その家族以外の本人たちは地域の集まりには出たいわけなんです。ところが家族は本人の普段の生活は見えないけども年齢だけで、やっぱり家にいなさい、きちっとしていなさい、いろんな設備を作りなさいっていうことで、そういう介護が必要な状態になるわけなんです。だから、よく話すのは「いやそうじゃなくて自分たちのために生きるためにやってきた、なんでここで（今までの生活を）止めなきゃいけないの」っていうのが、皆さんの意見でしたね、ただ、個人のお宅（の事情）にこれ以上入れないぞというところで止まっちゃうっていうところが大半ですね。

鷹乃杜地区では非常にそれが、問題ではないんですが悩みです。だから何とかここで、いい話が出てきて、みんなに返せばいいかなあというふうに思ってます。

(菅原委員) 富谷の高齢化率ですね、話が出て、実際今のところは、数字に出てきておりませんが若い人はかなり増えてるようなお話を伺ってます。それと、高齢者も当然増えてる。そこで私の住んでる明石台地区でも、家は今建っている、けどこの小学校、中学校、児童数も減ってるわけですよ、何かこの先々ね、この会議については非常にこう問題が具体化されるっていうか、それを懸念しております。

それで事業計画にもありますけども、この平均寿命と健康寿命ですか、これ当然今は県よりも男女とも上回ってますよね。これはやっぱりどうしても健康寿命だけはあるべく伸ばす方向でやっていただいて、介護保険料等も余らない方法をぜひ、市のほうではとっていただきたいというのが、私の意見です。

(横田課長) ご意見いただきましてありがとうございます。委員のお話の内容の通りだと思いますし、我々もこの計画に基づいて、また地域の声を聞き出来ることや、施策を進めていきたいと思いますので、今後ともその辺ご指導いただければと思います。貴重な意見ありがとうございます。

(永野委員) 私、「まごの手」という生活支援員もしているんですけども、3 ページのところに、高齢者を支えるしくみのところに、真ん中が生活支援員の活動っていうふうに書いてあり二重丸になってるんですけど、その活動は要介護にならない人の支援です。お掃除をしたり、買い物したり、料理をしたりしています。

5 ページにあります緊急通報システムですごく助かったと、一人暮らしの 80 歳以上の方なんですけれども、夜、ちょっと具合が悪くなると、不安でお電話したら、すぐに対応してくれて、次の日も「どうでした？」というふうにお電話が来るそうなんです。令和 6 年度の事業計画のところにも周知啓発に努めると書いてありますので、ぜひ周知していただきたいなと、これを使っている方からのお話がありましたので、お伝えします。よろしくお願いします。

それから高齢者がすごく増えてるんですね、活動的な人は活動的なんですけども、中に籠ってる人もいます。人数もとても多くなり 65 歳以上の一人暮らし、75 歳以上の 2 人暮らしが急激に増えてます。65 歳以上の一人暮らしといっても、結構元気な人はとても元気で、何で訪問に来たのかしらと思う方もいればやっぱり 65 歳にならない人でも、すごく体が弱っている方もたくさんいます。

もう一つ、一番最初の介護保険料の収納額のことについて、収納額の増えた理由というのは、さっきおっしゃったとは思いますが、結果減ったものに対しての

理由がちょっと聞いてなかったなあということと、それから不納欠損額っていうのはイコール「時効」っていうことですよ？再度お伺いしたいんですけど、時効は2年と伺ってるんですけども、令和5年、令和4年、どのぐらいの金額、前年と比較して3万ということで、結局、どんどん、どんどんこの150万ぐらいなのが毎年毎年増えていってる、欠損額になってはいると思うんですが、先ほどいろいろ苦勞して努力して、収納率を高める努力はしてるというふうにおっしゃっていたので、安心いたしましたし、と同時にご苦勞様でしたお疲れ様でしたっていう気持ちでいっぱいなんですけれども、その方たちが多分、介護保険料を払ってないということは介護保険を100%受けられない、そのデメリットっていうのは、ご説明はなさってはいるのでしょうか？再度もう一度説明お願いいたします。

(横田課長) 申し訳ございませんが税務課長は公務があり途中退席しておりますので、私のほうからその旨お話しまして、委員の皆様のほうに書面をもって回答させていただきたいと思います。

また、介護保険料の関係で滞納している方がサービスが使えないのか、と言うお話ですけれども、富谷市の場合につきましては滞納している方に関しましても実際にはサービスを利用しております。なので、滞納しているからサービスを止めてるとかっというところの部分は、現状はございません。

(相澤委員) 明石地区でゆとりすとの代表してるんですけども、8年前に、民生委員をしてる時に立ち上げたんですね、地区に結局、高齢者の人たちが集う機会がないっていうことで、必要になってくるんじゃないかなと思って立ち上げた感じです。

それで結構皆さん、できるかなあと思って悩んだんですけども、やはり高齢者の方の交流が欲しい、機会が欲しいっていうことで、半年ぐらいでゆとりすとサロンを立ち上げることができたんですが、ただ、うちのほうの戸数って50戸ぐらいの戸数ですから、やっていけるかなあという心配があったんですけども、結構皆さん参加していただいて、サポーターの方も結構集まって、順調にやってきたんです。

認知症の家族の方への指導とか、そういうものって市のほうでやっていただくとかそういうのも地域との和とかそういうものが、地域とかの補助っていうのかしら、そういうものも進んでいくのかなあとは私は思ってるんです。

そういうのがあると私たちも多分、その認知症になった方は施設に行ってるっていうことなので、介護のほうの世話にはなってると思うんですけども、もしその介護のケアマネジャーさんとかそういう方の援助があつて、それで地区にもそういう行事に

参加してくれるっていうようなことがあれば、また私的にはうれしいなと今思ってるんですけども、いかがでしょうか。

(大谷所長) 認知症の方への理解っていうところに関してですけれども、市では家族会を実施はしているんですね、それは当事者の方とご家族の方が中心になって来てはいただいているんですけど、市全体見渡せば非常に来ていらっしゃる方は少数なのかな、と感じているところです。

包括支援センターのほうですね、月に 1 回、圏域の方を中心に認知症カフェというカフェを開催しております。そちらのほうは幅広い、どんな方でも、参加を望むものでございます、そういったところに参加をいただきながら、認知症というのは決して他人事ではなくって、一番のリスクは年齢を重ねていくことが一番の最大の要因になりますので、いずれ自分もそうなる可能性があるっていうことを、皆さんに解っていただきながら、やっぱりどういう地域であるのが、自分が将来歳を重ねたときでも、こういう地域に住みたいなっていうところを含めて、地域の皆さんにも正しい理解をしていただくようにこちらでも啓発に引き続き努めていきたいなと考えております。

(佐藤委員) 7 ページの 6 番、自立した生活の情報発信の買い物発信の仕組みなんですけれども、ホームページということがなかなか、見るのが難しいというか、私も苦手なひとりなんです、そういうお年を召した方の、他の発信の仕方っていうのはおありでしょうか、といいますのは、この地域では、お店が閉店したために、何時発バス時刻はこういうふうに、地域はこうで帰りはこうで、というそういうチラシを見せていただいたことあるんですが、私の近所の 90 代、自立して、自分でできるうちは自分でやりたいというおばあさんは、お買い物をするときに、タクシーを呼ばれて、買い物にお出かけになっています。

「お手伝いしましょうか」とか、「シルバーではワンコインでお買い物とかの手伝い方法がありますよ」とかっていうことをお知らせをするんですが、「頑張ってみるわ」ということで一生懸命取り組んでいらっしゃる方でお一人暮らしなので、こういった情報の発信はホームページだけなのかお伺いしました。

(大谷所長) ホームページのほうのみで実施をしております。年に 1 回更新を掛け、後その都度何か変更があったら、更新を掛けさせていただいてっていうところになります。

こちらに関しては、例えばなんですけれども、移動販売の情報が入ったりしたら、そこにこれに載せていいかどうかなども確認を取りながら、更新をかけているところ

でございます。

地域包括支援センターのほうに、先ほどお話しした生活支援コーディネーターという職種の者がおりますので、是非どういったところでご不便を感じているかっていうのを包括と繋がりながら、包括がその方のニーズに合わせて、「こういったのありますよ」とか、「そういったのを使ってみたらどうですか」というところをご紹介をさせていただければと思っております、というところでございます。

(那須委員長) 非常にたくさんのご意見、頂戴いたしました。時間も午後 4 時になりましたので、その他ということで事務局からお願いいたします。

(横田課長) はい、その他ということで事務部のほうから資料を準備させていただきました。

資料 4 をまずご覧いただければと思います。1 枚もので両面のものでございます。

こちらにつきましては本日、実施しております介護保険運営委員会の内容につきまして基本事項の内容を示してございますので、後程ご確認いただければと思います。

介護保険運営委員会について、本年度から令和 8 年度までの 3 ヶ年間にわたる内容で、本年度につきましては 3 回（の会議）を予定しております。次回の運営委員会につきましては 11 月 7 日木曜日を予定してございますので、また近くなりましたら、ご通知させていただきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

令和 7 年度 8 年度の予定につきまして、来年度につきましてはアンケート調査、再来年度につきましては、次期計画の策定と、というような流れで進んでまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

また、参考資料 2 ということで、7 月 1 日時点の富谷市内の介護保険事業所一覧の表をまとめてございますので、後程ご一読いただければと思います。昨年度と比べまして、2 つの施設で、4 事業所が増えてございます。

最後に参考資料 3 ということで、今年 3 月に先ほど所長のほうからもお話がありました地域包括支援センターのご案内のチラシを作成してございますので、ぜひともご活用いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

その他としましては以上でございます。

(那須委員長) はい、ありがとうございます。以上、予定されていた議事のすべてを終了しましたので、事務局に進行をお返しいたします。

(横田課長) はい、委員の皆様方、長時間にわたりまして貴重なご意見をいただきましてあ

りがとうございました。

それでは以上をもちまして、令和 6 年度第 1 回富谷市介護保険運営委員会の一切を終了し、閉会といたします。委員の皆様、大変お疲れ様でございました。

< 閉会 > 16:05